学びに新しい「挑戦」と「観点」を。 vol.9 2007年10月号

CHUOH 知っ得通信 TRY+ANGLE

2007年10月20日発行 編集・発行：中央教育研究所(株) 〒732-0811 広島市南区段原2－15－5 http://www.chuoh-kyouiku.co.jp/

Mail Seminar

感情の論理 vol.8 「感情に忠実になる」

私の古い友人にプロのギタリストがいます。名前を小倉博和といいます。その業界では売れっ子らしく、多くのアーティストから引っ張りだこで、しばしばテレビにも登場します。佐橋氏というギタリストと「山弦」というユニットを組んで、一部のマニア?には絶大なる支持を得ているようです。

サザンの桑田佳祐さんが「稲村ジェーン」の映画を撮るときに、腕の良いギタリストを探していて、とあるプロデューサーの紹介で桑田さんと知り合いました。その後、サザンのサポート・メンバーとしてツアーを回り、桑田さんのソロアルバムにはアーティスト＆編曲者として参加しています。それまでの彼は「シブガキ隊」のバックバンドを務めるなど、名も無いギタリストでしかありませんでした。仕事も金も無く、汚いアパート暮らしです。

ただ、時間だけは充分にあった。毎日、18 時間ギターを弾いていたそうです。上手くなるはずです。いつか彼に聞いたことがあります。

「そんなにギターを弾いていて嫌にならないか?」

「別に。ギターが好きだから。それどころか、寝る時間も惜しいくらいだった。」

私は仕事柄、塾の社員研修に招かれることがあります。充分な時間を確保するために、勤務時間前の午前中から研修を始める塾も珍しくない。すると、一部の社員からクレームが来ると言います。曰く、

「時間外に研修をやらないでほしい。実施する時は時間外手当を払ってほしい。」

この社員の主張は正論だと思います。でも一方で、彼は一生自分の時間を切り売りして生きていくのだろうとも思ってしまいます。

「彼の人生」と「小倉の人生」…どちらが充実しているだろう。どちらが幸せだろう。好きで入った世界ならば「寝る時間さえ惜しい」と思いながら生きたいものです。

小倉はプロです。ギターを弾く姿を目の前で見ると、その人間の指とは思えない動きに感動を覚えます。また、知らない曲でも一度聴けば覚えてしまい、ギターで再現することができます。

これを読んでいる「あなた」は学習指導のプロです。目の前で見ている「客」に感動を与える授業をしているでしょうか。「さすがプロ教師」と生徒・保護者を唸らせていますでしょうか。カギは「寝る時間さえ惜しい」という好きなものに対する「思い」なのかもしれません。

「感情の論理」とは一義的には「客の感情に思いを馳せること」ですが、実はそれ以上に「自分の感情」に忠実になることが重要です。塾人は誰もが教育に対する熱い思いを持っているものです。

ところが、日々の忙しさの中で、どうかすると原点を忘れてしまいがちです。今の時期、あらためて塾を創業した頃の「理念」「ミッション」について考えてみてはいかがでしょう。自分でも忘れていた若い頃の思いを再発見するかもしれません。

そして、その時の感情に忠実に行動してみてください。かの有名な「銀座日本漢方研究所」(スリムドカンを売っている会社)創設者で、高額納税者番付の常連である斎藤一人氏は著書の中で言っています。

「天職を見つけることは簡単だ。あなたがワクワクする方向へ進めばよい。」

そう、間違いなく塾経営はあなたの天職のはずです。ワクワクしながら仕事をしましょう。

全国学習塾援護会 森 智勝

今月の気になるハナシ

３０年ぶりの授業時間増加か

学校現場や教育に携わる関係者にとって、大きな関心事である学習指導要領の改訂作業がいよいよ大詰めを迎えています。今月中にも、「審議の概要」がまとめられるとみられています。

今回の改訂のポイントは、ひとつは小学高学年への英語教育導入、もうひとつは、授業時間の見直しです。

１．30 年ぶりの授業時間増

小学校の授業時間は、７７年に告示された指導要領から減りはじめ、完全週５日制の導入などにより、大幅に削減されていました。しかし、今回の改訂により約３０年ぶりの方針転換となります。

中学校も同様に、授業時間の増やす予定です。現行の年９８０時間は、８９年の改訂からみると７０時間も減少していました。今回、３５時間程度増やし、年１０１５時間程度にする方向で動いています。

２．なぜ授業時間を増やすのか

今回の改訂では、「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」以上の３点の調和をテーマに進められています。そこで、基礎学力の国語、算数（数学）、理科、社会の主要教科は、各学年に応じて、授業時間を増加させる方針です。また、「体をつくる」という観点から、体育の授業時間も増加することがほぼ決定しています。

一方で、ゆとり教育の象徴であった「総合的な学習の時間」は、「知識を活用して考える力の育成は、授業時間が増加する各教科の中で充実する」と、小中学校ともに年３５時間程度減少する見込みです。

さらに、総合学習の授業時間を削っても足りない増加分は、夏休みの短縮や、土曜日の活用によって埋めていく考えを示しています。そのため、各教師の負担が増すと見られており、教員の定数改善も視野に入れているようです。

３．大事なのは、言語力

主要教科の授業時間が増えると、先ほど述べました。これは、「確かな学力」を身につけるためであり、それが最終的には「生きる力」を培うことになると考えられているためです。

特に力をいれているのは、国語を中心とした言語活動であり、増加した授業時間を、有効に利用すべきだとしています。

そのため、今後は例えば、社会科見学であったり、理科の実験をおこない、レポートや観察記録などを記述させる時間・回数が増えてくるかもしれません。

４．文科省の意図は

前回の小学英語導入や今回の授業時間の増加により、現行の指導要領から大きく変るように見られています。しかし、基本的な考え方は、「生きる力」の育成を引きつづき目指しています。

「ゆとり教育」の理念を残し、達成するための手法のひとつとして、今回の改訂内容は考えられていると文科省は説明しています。